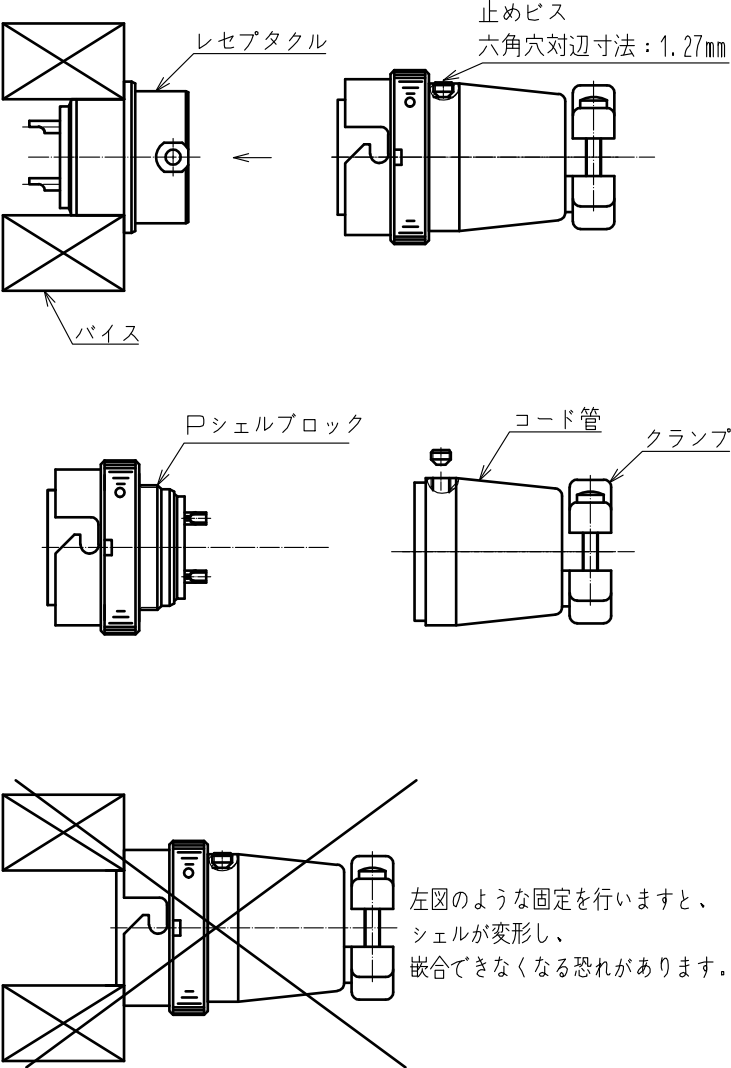


1. 適用範囲

RM15QPSシリーズコネクタの結線作業手順について示します。

2. 結線作業

No.	略 図	作業内容
1		・コネクタの分解 バイス等で固定したレセプタクルにかん合した後、止めビスをはずしてPシェルブロックとコード管、クランプを分離します。 注) バイス等で直接Pシェルブロックを固定すると変形又は破損する事があります。 レセプタクルを固定する際、締付けすぎによる変形が無いようにご注意ください。

COUNT	DESCRIPTION OF REVISIONS	DESIGNED	CHECKED	DATE
4	5 DIS-C-00016226	HT. ZENBA	HY. KOBAYASHI	20230927

名称	TITLE	APPROVED	SU. OBARA	20110214
RM15QPSコネクタハーネス手順書		CHECKED	HY. KISHI	20110214
		CHARGED	TY. SUZUKI	20110210
		WRITTEN	TY. SUZUKI	20110210

技術指定書	TECHNICAL SPECIFICATION	ATAD-C0236	4	1	3
-------	-------------------------	------------	---	---	---

No.	略 図	作業内容
2		・コネクタの組み込み ビスを緩めた後、コード管、クランプ、左図の向きでケーブルに組み込みます。 注) ケーブルの端末加工後では、コード管が通らなくなる場合があります。
3		・ケーブルの端末処理 ケーブルは左図の寸法で端末処理をします。 注) ストリップの際リード線の被覆、導体に傷を付けると絶縁不良や導通不良が発生する事があります。
4	①、② ③ ① 注意 はんだ付け条件は、厳守して下さい。守らないと、絶縁物の溶けや端子の抜けなどが発生する恐れがあります。 ④	・はんだ結線 ① 導体に予備はんだをします。 ② 熱収縮チューブを電線に通し落下ないようにテープ等で止めます。 ③ バイス等で固定したレセプタクルにPシェルブロックをかん合させ端子結線部にリード線をはんだ結線します。 ⚠ はんだ結線条件 はんだこて先温度：350±10℃ はんだ結線時間：3秒以内 注) いもはんだ、てんぶらはんだ等が無いようにはんだ結線をします。また、電線と端子のはんだ結線部ははんだが十分融合されている事をご確認願います。 ④ はんだ結線部は耐圧不良防止の為、熱収縮チューブで被います。尚、チューブの先端は押え板端面に突き当てます。 注) 熱収縮チューブをヒートガン等で熱収縮させる際は、リード線やシースを溶かさないう注意して下さい。

HRS

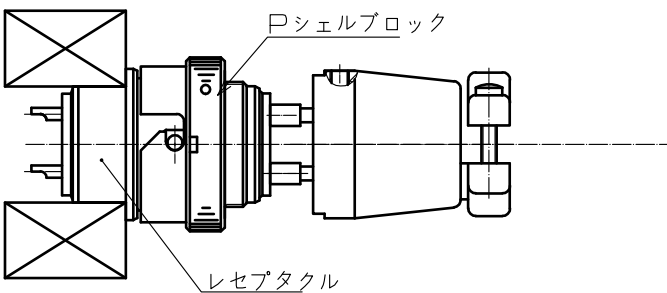
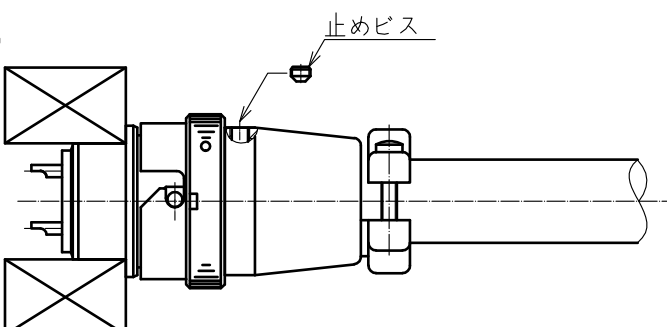
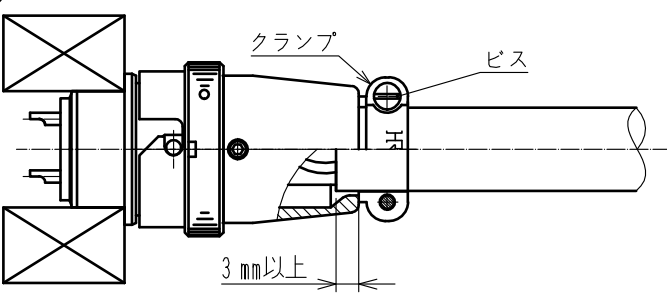
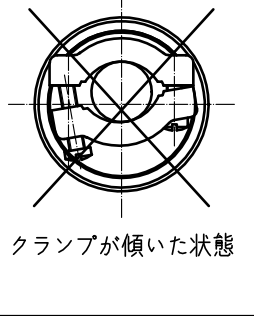
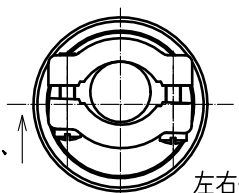
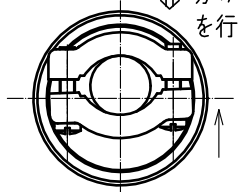
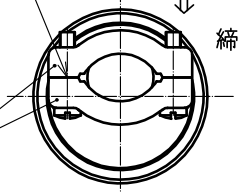
HIROSE ELECTRIC CO., LTD.

ATAD-C0236

⚠

2

3

No.	略 図	作業内容
5	①  ④ 注意 レセプタクルの固定は、コネクタを組立てるトルクでも動かないよう、しっかりと止めて下さい。 固定が十分でないと、組立作業中にコネクタが傾くなどして、コネクタの破損や、指定のトルクで締付けができない恐れがあります。 ②  ③  ④ NG締付け工程  ④ OK締付け工程  左右何回かに分けて締付けを行う。  ④ 締付け状態 	・コネクタの組立 ① はんだ結線をしたPシールドブロックにコード管の締付けを行います。 (推奨締付けトルク：2～3N・m) 尚、締込みは、バイス等で固定したレセプタクルに嵌合した状態でを行います。 注) コード管を締付ける際、ケーブルが回らないよう保持して行ってください。 ② Pシールドブロックに止めビスの締付けを行います。 (推奨締付けトルク：0.3～0.4N・m) 尚、止めビスには緩み防止としてヘンケルジャパン社製、ロックタイト242又は同等品の塗布を推奨します。 ④ クランプは左図の如くケーブルシース寸法(3mm以上)を満足するように、ケーブルシースがコネクタ内部になる位置まで電線をホーミングさせてビスを締付けます。 又、ビスは、十分なクランプ力が得られるようにクランプとクランプ取り付け面が接するまで確実に締付けます。 尚、ビスには緩み防止としてヘンケルジャパン社製、ロックタイト242又は同等品の塗布をお願いします。 ④ 注1) 3mm以上の寸法が満足していない場合、ケーブルのクランプ力が低下する事があります。 ④ 注2) ビスは、ふたつのクランプがなるべく水平にした状態で締付けられるよう、左右何回かに分けて締付けをお願いします。 クランプが傾いた状態でビスを締付けると、ねじ部が破損する恐れがあります。